

検査のパレット

今回はグリコヘモグロビン（ヘモグロビン A1c=HbA1c）についてお話しします。

グリコヘモグロビン（ヘモグロビン A1c=HbA1c）とは

ヘモグロビン A1c (HbA1c) は過去 1~2 ヶ月間の平均的な血糖値を反映することから、糖尿病の診断や経過観察の指標として広く使用されています。

グリコヘモグロビン（ヘモグロビン A1c=HbA1c）のヘモグロビン (Hb) は血色素の事です。

血色素は赤血球に入っていて酸素を運ぶ役割を担っています。その血色素 (Hb) にぶどう糖が付いた物が「HbA1c」です。赤血球の寿命はおおよそ 120 日 (4 ヶ月) といわれています。

赤血球はこの間ずっと体内を巡って、血管内のブドウ糖と少しずつ結びつきます。

高血糖は糖が多ければ多いほど結びつきが増えグリコヘモグロビン (HbA1c) も多くなるわけです。

(血糖コントロール状態の指標と評価) ※1)

指標	優	良	可		不可
			不十分	不良	
HbA1c (NGSP)%	6.2 未満	6.2~6.8	6.9~7.3	7.4~8.3	8.4 以上
空腹時血糖値 mg/dl	80~110 未満	110~130 未満	130~160 未満		160 以上
食後 2 時間血糖値 mg/dl	80~140 未満	140~180 未満	180~220 未満		220 以上

* 空腹時血糖値が 160 (mg/dl) 以上、食後血糖が 220 (mg/dl) 以上、HbA1c(NGSP)が 8.4%以上
以上に維持されると、合併症発症および進展の可能性が非常に高くなります。

因みに当院の HbA1c(NGSP)の基準値は、4.6~6.2%です。

HbA1c の測定方法には主に 3 つの測定法があります。

- ① 高速液体クロマトグラフ法 (HPLC) : イオン交換カラムを用いる方法
- ② 免疫学的方法 : 抗原抗体反応による方法
- ③ 酵素法 : プロテアーゼによる方法

2015 年 4 月より、当検査科では従来の免疫学的方法から、酵素法の測定に変更しました。

糖尿病は放置すると網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、さらに心筋梗塞や脳卒中など、動脈硬化による病気も起こりやすくなります。早期に発見して、早期に治療することが大切です。

参考文献：日本糖尿病学会 ※1)

今後とも、中央検査科をよろしくお願ひし致します。